

## 復興支援「再生可能エネルギーで土湯温泉まちづくり」奇跡の復興モデル

「再生可能エネルギーで土湯温泉まちづくり」～当 NPO がお手伝いした、東日本大震災で打撃を受けた温泉街がV字回復、SDGs(持続可能な開発・国際目標)の復興モデルとして注目されています。

福島市土湯温泉は「こけしはぐくむ湯の里」で 1000 年以上の歴史を持ちます。東日本大震災で壊滅的な打撃をうけ、地域資源を活かした電力事業で復興再生に賭けました。

当 NPO は 2013 年より、「福幸プロジェクト」と名付け復興支援に取り組んでいます(後記)。湯温泉街の電力事業が開業に漕ぎつけた折に、この取り組みを広く知らせるため、2015 年に株式会社元気アップつちゆ(電力事業主体)、土湯温泉観光まちづくり協議会との 3 者共催によるフォーラムと発電所視察会を提案し、環境省の予算を取り付け、企画から参加者募集、実施運営、フォローアップと一貫してお手伝いをしました。

「元気アップつちゆ」】<http://www.genkiuptcy.jp/>

130℃の源泉を利用したバイナリー発電を発電後、成分・泉質も変わらず旅館へ届け、一般家庭約 900 世帯に、1kwあたり 40 円で、売電、収益は 1 億円で、バス定期の無償化などの地域貢献をはたしながら奇跡の回復を遂げています。溪流も利用し、砂防ダムに小水力発電を設置し、また養殖事業等にも取り組んでいます。

これらの施設を観光資源にSDGs学習施設見学ツアープログラムをつくり全国各地からの視察研修で、 昨年は 78 グループ 827 名(内教育機関 15 件 124 名)が視察に訪れています。

福島県は「再生可能エネルギー100%の地域ビジョン」を掲げていますが、土湯温泉町は、その復興モデルとして内外に注目されており。次世代を担う人達にも、その姿を見て感じて学ぶ場として、広く利用を呼び掛けています。(概要・問い合わせは後記)



### 2013 福幸プロジェクト活動内容

4

これまでの青年会議所からの要請活動から、NPOクラブ主体の活動に軸を移す

- ・農業復興……有機農業団体OFAとの連携
- ・温泉街復興……土湯温泉強化、岳温泉協会との連携
- ・再生可能エネルギーによる復興……太陽光発電支援

OFA代表



バイナリー発電所建設予定地



水力発電所建設予定地



(記)

◎「福島再生可能エネルギー施設見学ツアー」(1泊2日)

～数多くの種類の再生可能エネルギー発電施設を見学し、「再生可能エネルギー100%の地域ビジョン」の実践状況を肌で見て感じて学ぶ～

問い合わせ先:【事務局】(一社) 福島県再生可能エネルギー推進センター

<http://freenergy.org/> 遠藤 裕子 TEL 024-529-7463 [endo@freenergy.org](mailto:endo@freenergy.org)

◎「まちづくり」支援、当NPOへのお問い合わせ先:

認定NPO 法人経営支援 NPO クラブ佐藤秀治 090-4416-2921 [mailsato.shuji@ka-npom.com](mailto:sato.shuji@ka-npom.com)